九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

韓国人留学生の言語使用の特徴 : フレーム・コンテント仮説から見た日・韓コード・スウィッチング

李, 宥定

https://doi.org/10.15017/1470213

出版情報：地球社会統合科学研究. 1, pp.9-18, 2014-09-10. 九州大学大学院地球社会統合科学府
バージョン：
権利関係：

『地球社会統合科学研究』創刊号（2014）9～18
Integrated Sciences for Global Society Studies
No.1（2014），pp. 9～18

韓国人留学生の言語使用の特徴

―フレーム・コンテント仮説から見た日・韓コード・スウィッチング―

李（イ）　宥定（ユジョン）

1．はじめに

日本に滞在している韓国人留学生同士の談話を観察すると、以下のように日本語と韓国語を巧妙に交ぜた言語形式を発見することができる。

（1）

発話文番号	話者	発話内容
39	KL 1	저도 여기 있다가 보니까 へたくそ가 되어가는 것 같아요. 【私もここに来てからへたくそになっていくような気がします】

（2）

発話文番号	話者	発話内容
22	KL 2	ヨン様ブーム이 일어나기 전부터 일본에서 가르쳤대요. 【ヨン様ブームが起きる前から日本で教えていたそうです】

（3）

発話文番号	話者	発話内容
18	KL 3	언니는 졸업은 日本語言語学으로 졸업했어요. 【あの姉さんは日本語言語学を出ています】

このように談話の中で、二つ以上の言語が使用されることをコード・スウィッチング（Code-Switching、以下CSと略す）[1]と言う。無論、これは韓国人留学生のみに見られる現象でなければ、異言語間のみで起きる現象でもない[2]。例えば、日本に滞在している外国人を対象にインタビューを行うテレビの番組で「YOUは何しに日本へ」[3]というのがある。この番組のタイトルも二言語間CSが使われた一例であり、「あなたは何しに日本へ」の「あなた」にあたるところを「YOU」に入れ替えることで、「Why did you come to Japan?」や「あなたは何しに日本へ」より強いインパクトが感じられる。またスウィッチが起きた際の文法構造については、例（1）から例（3）のように語順が類似している言語同士間のみで起きやすいのかとも思われるが、日本語と英語のように、語順の異なる言語同士間でも起きていることが確認できている。このように二言語間CSの言語機能と文法構造は、これまで多くの研究者によって様々な言語を対象に報告されている。

そして、初期の日本語と韓国語間CS（以下、日・韓CSと略す）研究では、主に在日韓国人を中心に彼らの言葉遣いにみられる日・韓CSの形態的特徴（混合形式[4]、特定の品詞における切り替えなど）に関するものが多く報告されている。しかし、これらの研究は日本語と韓国語の語順における類似性が前提として成り立っており、パターンによる分類やスウィッチが起きる主な品詞を提示することにとどまっている。つまり、日・韓CSの文法構造は、依然として不明のままである。そして日・韓CSの形態的特徴について試みた殆どの研究は、パターンによる分類は認めているものの、ベース語については触れていない。

したがって、本稿では日本に滞在している韓国人留学生の母語場面における談話データに基づき、ベース語の有無と日・韓CSの文法構造の解明を試みる。以下、第2節では二言語間CSに関する先行研究を概観し、第3節では調査協力者と具体的な調査方法について述べ、第4節では調査分析の結果とそれに基づいた考察をする。最後に第5節では結論と今後の課題を述べる。

2．先行研究

まず、田崎（2006）、東（2009）、宮原（2012）を参考に二言語間ＣＳの定義をすれば〈表1〉のとおりとなる。

初期の二言語間CS研究では、スウィッチが起きる際の文法規則やコミュニケーション機能については殆ど研究されていないにも関わらず、二言語間CSの発生原因は、あくまでも言語教育の低さや言語能力の不足から起因したものであると考えられていた。ところが、後に言語学者と社会言語学者を中心に、スウィッチが起きる際の文法規則とその機能について研究されはじめ、二言語

〈表1〉二言語間CSの定義

分類	言語切り替え（Code-Switching）
単位	・単語句、文間レベル
ベース語との結合度	・ベースとなる言語に組み込まれず、形態素的、音韻的にベースとなる言語と異なる
意識・無意識	・二言語それぞれの独自の文法規則は失われず、意識的・無意識の両面で行われる
二言語能力	・二言語能力を必要とする

間CSというのは、単なる言語能力の不足に起因するものではなく、何らかの目的と効果を得るための言語行為であり、文法的な特徴も持っていることが明らかになったのである。

その中でも文法的な規則性については、語順の一致性に注目した等価制約仮説（Equivalence Constraint）と、形態素に注目した自由形態素制約仮説（Free Morpheme Constraint）、頭の中にインプットされている単語に関する知識がどう産出されるのかに注目したフレーム・コンテント仮説（Frame-Content Hypothesis）が代表的である。これらの仮説は、既に様々な言語を対象に、多くの研究者によって検証されてきたものの、今のところ全ての二言語間CSに適用可能な理論は存在していないようである。

また、これまでの日・韓CS研究の中で、その文法構造に関する直接的な解明を試みたものは殆ど報告されておらず、主にスウィッチが起きた際の形態的特徴に関するものが多い。例えば、金（1994）は大阪、東京、横浜、京都居住の在日韓国人一世と、日本で生まれ育ち、日本語が母語である在日韓国人二、三世との比較を通じ、彼らの間では世代を超え、慣用化された表現が使われていることを明らかにした。ここで言う慣用化された表現とは、以下のようなことを示す。

（4）[5] TK：ひでよし chol しや、みんな chol し！　金静子（1994：79）
（秀吉、お辞儀しなさい、みんなお辞儀しなさい！）

（5）[6] KA：ppallae する。　金静子（1994：79）
（洗濯する。）

（6）[7] KA：sikssa する。　金静子（1994：79）
（食事する。）

これらは混合形式、あるいは結合形式と言い、動作性のある韓国語の名詞に日本語の「する」を結合させ、動詞として用いることを示す。この混合形式については、金（1994）の他、郭（2012）、金（2001）などが指摘しており、その中でも郭（2012）は、調査の対象を帰国子女、韓国人留学生、在日一世、韓国人学校の学生などに分け、混合形式の使用の有無を分析し、同じ韓国語母語話者だとしても所属している集団によって、日・韓CSの性質が異なることを明らかにしている。

〈表2〉混合形式の使用実態[8]

区分＼所属集団	帰国子女	留学生	在日一世
日本語の名詞＋「하다」	×	○	○
日本語の動詞＋「하다」	×	○	○
韓国語の名詞＋「する」	×	×	○
韓国語の動詞＋「する」	×	×	○

混合形式以外には、文の構成要素の中で、どのような構成成分においてスウィッチが起きやすいのかに関するものが多く、主語と述語におけるスウィッチ、副詞、接続詞などにおける日・韓CSが報告されている。これらの研究は、語順が類似しているため日・韓CSが起きやすいだろうという、日本語と韓国語の語順の類似性によるスウィッチを前提にしている。言い換えれば、日・韓CSの文法構造も語順の一致性によって説明できるだろうとの見解なのである。しかしながら、日・韓CSの文法構造について、直接的に解明を試みた研究はこれまで報告されていない。

そこで、本稿では日・韓CSの実際のデータに基づき、その文法構造について明らかにすることを目的とする。具体的に、フレーム・コンテント仮説（Frame-Content Hypothesis）をもって明らかにしたい。また、フレーム・コンテント仮説（Frame-Content Hypothesis）の他にこれまで語順における類似性から頻繁に適用されてきた等価制約仮説（Equivalence Constraint）、統語規則に基づいたもう一つの仮説である自由形態素制約仮説（Free Morpheme Constraint）についての検証も同時に行い、より明確な解明を試みる。

3．調査方法と調査協力者

本稿は、日・韓CSの文法構造について調べることを目的とするため、分析の対象として、日本に滞在している韓国人留学生の母語場面における録音データ（「簡単ボイスレコーダー」：2013.4.23～2014.1.8）を文字化したもの[9]を用いる。日・韓CSに関するデータは、在日韓国人、帰国子女、多文化家庭での二言語話者などからも得られるが、所属集団により日・韓CSの性質が異なる（郭2012：169）ことから調査対象を韓国人留学生のみに限定する。録音は、特定の話題は決めず、筆者と交わし

たものである。なお、日・韓CSは音声言語でのみならず、携帯メールなどの文字言語でも発見することができるが、携帯メールなどを利用した文字言語では媒体機器による影響が考えられるため、本稿では音声言語を中心に考察し、携帯メールなどの文字言語については、稿を改めて論ずることにする。

以下は、調査協力者を順番にKL１からKL３と称し、録音当時の各自のプロフールを〈表３〉にまとめ、録音資料については〈表４〉にまとめた。

〈表3〉韓国人留学生のプロフィール（録音当時）

分類	性別	年齢	滞在期間	JLPT（N1）の有無
KL１	女	20	3年	○
KL２	女	25	3年	○
KL３	女	23	2年	-

〈表4〉韓国人留学生のプロフィール（録音当時）

資料番号	性別	年齢	（総）録音時間
1	一回目（2013.9.9） 二回目（2013.10.5） 三回目 （2013.11.18）	KL1と筆者	538分
2	一回目 （2013.10.27） 二回目 （2013.11.28） 三回目（2014.1.8）	KL2と筆者	320分
3	一回目（2013.4.23） 二回目（2013.6.28）	KL3と筆者	99分

４．考察

4.1　日・韓CSのパターン

データ分析の結果、日・韓CSは以下のようにパターン化することができる

①内のCS（intrasentential code-switching）；一つの文（sentence）や節（clause）内で起きるCS、あるいは一語内でそれぞれ異なる二つの言語が入り交じること。

②文間のCS（intersentential code-switching）；文（sentence）と文の間、あるいは節（clause）の境界で起きるCS。

③付加のCS（extra-sentential code-switching）；タグ（tag）挿入のこと。

（７）

発話文番号	話者	発話内容
77	KL３	あきらめ 하기 보다는 다음 기회에. 【諦めたというより、また今度.】

日・韓CSにおけるパターン分類は、これまで多くの研究者からも報告されているものの、分析の対象は主に文内のCSに集中している傾向がある。その理由として考えられるのは、文内のCSにおいて日・韓CSが最もよく現れていることや、研究者によって付加のCSを文内のCSあるいは文間のCSと同様のものとして扱っていることなどが挙げられよう。

（８）

発話文番号	話者	発話内容
26	KL３	…근데 그러는거 보다 그냥 自然にすることがいいかなと思ってます.【…でも、そうするよりは自然にそうなることを願っています.

（９）

発話文番号	話者	発話内容
186	KL１	…이런식으로 저한테 조언을 해주는 거예요.なるほど 그러고 보니까 학교 끝나면 바로 알바가고 알바끝나면 집에 가서… 【…そんなふうにアドバイスをしてくれてね.なるほどそう思えば学校が終わったらすぐバイト先に向かって、バイトが終わったらお家に帰って…】

本稿では日・韓CSにおける文法構造の解明を目的としているため、日・韓CSの三つのパターンのうち、文内のCSを主な分析の対象とするが、必要に応じて文間のCS、付加のCSについても触れることにする。

4.2　日・韓CSの文法構造

4.2.1　統語的な類似性からみた日・韓CS

これまでの日・韓CS研究は、日本語と韓国語における語順の類似性を前提にした報告が多いようである。語順に注目した二言語間CS理論には等価制約仮説（Equivalence Constraint）が代表的で、等価制約仮説（Equivalence Constraint）とは、二つの言語で語順が一致している部分のみで自由にスウィッチが起き、語順が異なる部分ではスウィッチが起きないという仮説である。例(10)は、日・韓CSの実際の例であるが、(10)′で示したとおりに、語順の一致しているところでスウィッチが起きているのが確認できる。

(10)

発話文番号	話者	発話内容
16	KL３	基本的な　책이 있어요. 【基本的な本があります.】

(10)'

韓国語：	기본적인	책이	있어요.
日本語：	基本的な	本が	あります。
日・韓CS：	基本的な	책이	있어요.

しかし、同じ「SOV」構造を持った言語同士だとしても、文中の副詞の位置、複合動詞や複合形容詞の構成順序などにおいては、次のように語順のズレが生じる場合があり、等価制約仮説（Equivalence Constraint）が適用できない場合がある。

(11)

発話文番号	話者	発話内容
41	KL２	…그게 考えすぎ. 생각하느라 하루를 보내요. 【…それが考えすぎ. 考えるだけで一日を費やしてしまう.】

(11)'

韓国語：	그게	너무（副詞使用） 생각만하는 것입니다.
日本語：	それが	考えすぎ（複合語化）.
日・韓CS：	그게	考えすぎ.

日本語は「食べきる」の「～きる」や「やり終わる」の「～終わる」のように、複合動詞や複合形容詞にすることで、文法的意味を表すことが多いのに対し、韓国語は例（11）'のように、副詞をもって表すことが多い。さらに文中での位置は、動作を修飾する副詞を動詞の前におくのがより自然な表現になる。例えば、日本語の「お互いを抱き合った」は、「お互いを」を省略しても間違いではない。しかし、「*お互いを抱いた」と言えば間違った文になる。 つまり、相互的な意味を持たない動詞を相互的な動作として使う場合、「マス形の語幹＋合う（愛し合う、話し合う）」の複合動詞形にするか、「お互いに、相互に」などの副詞を用いたりするが、副詞のみでは相互的な動作であることが十分表せないため「*お互いを抱いた」は間違った文になるのである。一方で、韓国語はむしろ「お互いに、相互に」にあたる副詞「서로를」の役割に重点が置かれると言えよう。他に「しゃべり続ける／계속 소곤거린다」「食べ終わった／다 먹었다」でも同様である（김 2009：153）。したがって、これまで日・韓CSについて論ずる際、語順の一致による前提は見直す必要があるのではないかと考えられる。

また、等価制約仮説（Equivalence Constraint）の他に文の形態素に注目した自由形態素制約仮説（Free Morpheme Constraint）がある。自由形態素制約仮説（Free Morpheme Constraint）とは、形態素[10]に基づいた仮説で、独立的に使用可能な自由形態素（Free Morpheme）[11]と、常に他の形態素に付属して使わなければならない拘束形態素（Bound Morpheme）[12]の二つに分け、自由形態素と拘束形態素間ではスウィッチすることなく、自由形態素間のみでスウィッチが起きるという仮説である。日・韓CSの実際の例をもって説明すると次のようである。

(12)

発話文番号	話者	発話内容
45	KL３	ごま가 뿌려져 있어 사진에. 【胡麻が入ってます、写真には.】

(13)

発話文番号	話者	発話内容
46	KL１	근데 社宅가 없어요？ 【ところで、社宅はないですか？】

(14)

発話文番号	話者	発話内容
102	KL２	여기는 다 漬物라 신기해요. 【ここでは全て漬物だから妙な気分がします.】

例(12)から例(14)を見ると、自由形態素間のみ(名詞)でスウィッチが起きているのが確認できる。しかし、自由形態素制約仮説（Free Morpheme Constraint）も既に多くの学者から指摘されているように、自由形態素間のみならず、拘束形態素間でもスウィッチが起きており、今回の調査データからも拘束形態素間でのスウィッチを確認することができた。

例（15）、（16）を見れば、拘束形態素間でもCSが起きているのが分かる。特に、例（16）の「創作해서【して】」のような混合形式については、自由形態素制約仮説をもって説明するには限界があるように思える。

Poplack（1980）の等価制約（Equivalence Constraint）と自由形態素制約（Free Morpheme Constraint）の仮説は、英語とスペイン語のように統語的に類似していると言われている言語同士を対象に立てられた仮説であり、語族と語順の異なる言語間のCSには適用されないという前提があった。しかしながら、今回の調査を通じて統

語的に類似していると言われている日本語と韓国語間での二言語間CSについても適合しないことが証明され、これまでの日・韓CS研究で語順の類似性から日・韓CSの文法構造を解明しようとする主張は根本的に見直す必要があるのではないかと考えられる。

(15)

発話文番号	話者	発話内容
91	KL 2	나도 두부는 좋아하는데 반찬ぽくない. 【私も豆腐は好きだけどおかずっぽくない.】

(16)

発話文番号	話者	発話内容
185	KL 1	쉐프가 직접 創作해서 하는 거라, 여러가지 和風도 있고. 【シェフ自らが創作して出しているから、いろいろな和風もあるし.】

4.2.2 フレーム・コンテント仮説から見た日・韓CS

フレーム・コンテント仮説(Frame-Content Hypothesis)とは、頭の中にインプットされている単語に関する知識が、どう産出されるのかに注目したもので、宮原(2012:85)は次のように述べている。

> フレーム・コンテント仮説では、文を産出する際に、２段階のステージを経ていると考えられている。まず、ある程度の句や節といった文法的まとまりが構築される段階がある。これをフレーム構築ステージと言う。この段階では機能語がある程度フレームの一部となっている。次の段階は、構築されたフレームの中に内容語が入る段階であり、これを内容語挿入ステージと言う。最終的には、これらの情報が音声処理部門に送られ、発声されることになる。(p.85)

つまり、「機能語(時制、ヴォイスなどを示し、接辞、冠詞、助動詞、前置詞、後置詞など主に文法的な働きをする)」をもって文の枠組み(フレーム段階、マトリックス言語)を作り、その次に「内容語(名詞、動詞、形容詞、副詞、接続詞などある程度の意味内容を持つ)」を挿入(コンテント段階、ゲスト言語)することで、文を完成させることである。そしてこの仮説に基づくと、二言語間CSは文の枠組み(フレーム)を作る段階のみならず、内容語を挿入する段階でも起こり得る(東2011：43)。フレーム・コンテント仮説(Frame-Content Hypothesis)に基づけば、次の例(17)から例(19)は、まず、韓国語で文の枠組みを作り、その後内容語を挿入する際「やわらかい」「毛布」「布団」「言語」「言語学」というゲスト語が入ってきたとみられる。要するに、内容語の挿入段階の日・韓CSの例であると言えよう。

(17)

発話文番号	話者	発話内容
107	KL 2	옛날에는 진짜 저런거 못 봤는데 성격이 많이 やわらかい해진 것 같아요. 【前は、あんなのじっとして見ていられなかったですけど、今は性格がけっこうやわらかくなりましてね.】

(18)

発話文番号	話者	発話内容
546	KL 1	毛布에다布団까지 덮고자도무 추워요.【毛布に布団まで被っても寝る時とても寒いです.】

(19)

発話文番号	話者	発話内容
16	KL 3	내가 일어일문과는 나왔으면 진짜 言語에 대해서도 言語学 에 대해서도… 【私が日語日文学科を出たのであれば言語学についての知識も…】

それでは、次の例はどうだろうか。例(20)から例(22)は主語の名詞と共に後置詞の「ガ」でもスウィッチが起きており、おそらく、枠組みを作る段階で起きたスウィッチだとも言えそうである。例(20)から例(22)はこれまでの日・韓CS研究によれば、主語と述語の切り替え(郭2012:163)として扱われてきたものである。

(20)

発話文番号	話者	発話内容
41	KL 3	《人名》が中国관계있는거 맞죠？ 【《日本人名》が中国と関わっているんでしょ？】

(21)

発話文番号	話者	発話内容
63	KL 1	万引きが　있다고요？ 【万引きがあるんですって。】

(22)

発話文番号	話者	発話内容
80	KL 1	名字が 바뀌셨겠네요？ 【名字が変わったんでしょ？】

しかし、日本語の格助詞「ガ［ga］」[13]と韓国語の格助詞「가［ka］」[14]は、発音においても文法的な機能においても非常に類似したところがあり、例（20）から例（22）は次のように表すこともできる。

(20)'

発話文番号	話者	発話内容
41	KL３	《人名》가中国관계있는거맞죠？ 【《日本人名》が中国と関わっているんでしょ？】

(21)'

発話文番号	話者	発話内容
63	KL１	万引き가　있다고요？ 【万引きがあるんですって。】

(22)'

発話文番号	話者	発話内容
80	KL１	名字가 바뀌셨겠네요？ 【名字が変わったんでしょ？】

前項にくる語（日本語）の影響で、日本語の「ガ」として認めるべきだという意見も可能であるが、宮原（2012:86）の「基本的に主節の述部の文法的フレームを成している言語がマトリックス言語になる」に従えば、韓国語の「가」として認めた方が望ましいのではないかと思われる。そうすると、主語と述語の切り替えとして扱われてきた例(20)から例(22)のようなものは、フレーム・コンテント仮説(Frame-Content Hypothesis)により、内容語挿入の段階で起きた日・韓CSになろう。

そして、日・韓CSには韓国語の動詞や動作性名詞に日本語の補助動詞の「する」を結合させたり、日本語の動詞に韓国語の補助動詞の「하다【する】」を結合させたりする混合形式の例が多くある。在日韓国人を対象に研究を行った金（1994：81）は、混合形式に対して次のように述べている。

> 이들 어휘들은 한국어 ‘하다’의 造語 기능이 그대로 반영된 것이라 할 수 있다. 한국어 ‘하다’는 동사나 형용사의 어간, 부사, 또는 외래어의 동사나 형용사, 명사에 붙어 동사 형용사로 쓰인다.(p.81)
>
> これらの語彙は韓国語の「하다」の造語機能がそのまま反映されていると言えよう。韓国語の「하다」は動詞や形容詞の語幹、副詞、または外来語の動詞や形容詞、名詞につき、動詞形容詞として使われている（日本語訳は筆者より）。

そして韓国人留学生を対象に日・韓CSについての解明を試みた郭（2012：164）は混合形式について、「韓国人留学生の場合、動詞と形容詞の連体形をそのまま切り替えるのではなく、動詞と形容詞の基本形の後に韓国語の接尾辞「하는【する】」を接続させて名詞を修飾する」と述べている。

それでは、このような混合形式をフレーム・コンテント仮説（Frame-Content Hypothesis）をもって考えてみよう。次の例（23）と例（24）は、文全体のマトリックス言語は韓国語で、文全体から見たゲスト語は日本語の「一緒に」「いらいらする」になる。つまり「하다【する】」は機能語であり、挿入された「一緒に」「いらいらする」が内容語になるのである。そうすると、いわゆる混合形式とは内容語挿入の段階で作られた日・韓CSであり、日・韓CSの特徴だと言える。さらに、混合形式がなぜ頻繁に用いられるのかについての一つの答えにもなり得ると思われる。

(23)

発話文番号	話者	発話内容
15	KL３	…도 一緒に하는 거잖아요. 【…も一緒に参加してくれるでしょ.】

(24)

発話文番号	話者	発話内容
46	KL２	금연중이라서이라이라하는해서, 아까 선생님이랑 상담했는데 계속 막 욱하는거에요. 【禁煙中にはいらいらしていて、さっき会った先生との相談の時間にもついついかっとなってしまってね.】

(25)

発話文番号	話者	発話内容
67	KL２	가방은 無駄遣い하는게 아니에요. 【鞄を買うのは無駄遣いじゃないですよ.】

(27)

発話文番号	話者	発話内容
53	KL２	알바는 順調해요. 【バイトは順調です.】

しかし、フレーム・コンテント仮説（Frame-Content Hypothesis）のみでは答えられない次のような例がある。

(15)'

発話文番号	話者	発話内容
91	KL２	나도 두부는 좋아하는데 반찬っぽくない. 私も豆腐は好きだけどおかずっぽくない.】

例（15)′の「반찬っぽくない【おかずっぽくない】」は、機能語において日・韓CSが発生していることから、枠組みが作られる段階で、スウィッチが起きたようにみえる。しかし、「っぽくない」が例（15)′において本当に機能語としての役割をしているのかという疑問が生じる。そこで、フレーム・コンテント仮説（Frame-Content Hypothesis）にベース言語の概念を導入して考えてみたい。

4.2.3　フレーム・コンテント仮説とベース語

二言語間CSにおいてベース語とは、スウィッチが起きた際、機能語においても内容語においても文構成の主な役割を果たす言語のことを言う。ところが、二言語のうちベースとなる言語を認めるか認めないかについては学者ごと意見が分かれている。例えば、Hoffmann（1991）は、二言語間CSとはベースとなる言語を持たず、二言語が同等に使われ、文間で起きるスウィッチのみが二言語間CSであると定義したが、それに対し、田崎（2006:57）は二言語が同等に使用されているという判断の難しさや文内におけるCSの存在などを挙げ、Hoffmann（1991）のベース語に対する見解に反する意見を出している。次の例（25）からは、文内のCSと文間のCSが見受けられる。

(28)

発話文番号	話者	発話内容
584	KL 1	등불축제 이번주에 長府에서 있잖아요. ライトアップされる. 【灯篭祭が今週、長府であるのでしょ．ライトアップされる.】

まず、文内のCSである「등불축제 이번주에 長府에서 있잖아요【灯篭祭が今週、長府であるのでしょ】.」について述べると、ベースとなる言語は韓国語で、「長府」という固有名詞でスウィッチが起きている。次に文間のCSが起きている「ライトアップされる」について述べると、ベースとなる言語は前の文とは違って日本語である。

そこで、例（15)′を再び見てみると、前述したとおりにフレーム・コンテント仮説（Frame-Content Hypothesis）によれば、例（15）′は機能語においてスウィッチが起きているため、枠組みを作る段階でスウィッチが起きたと言えよう。しかし例（15)′の文には韓国語による機能語もあり、さらにベース語の概念を導入すれば、例（15）′は韓国語をベース言語としていると言えよう。つまりフレーム・コンテント仮説を適用する際、ベース言語を見極める必要があり、機能語においてスウィッチが起きたら、文の枠組みを構築する段階でスウィッチが起きたというより、本当に文中で機能語としての役割を果たしているのかを確かめてみる必要があろう。

(15)'

発話文番号	話者	発話内容
91	KL 2	나도 두부는 좋아하는데 반찬っぽくない. 私も豆腐は好きだけどおかずっぽくない.】

5　まとめ

これまでの研究では、二言語間CSは明確な言語規則に従って起きていることが多くの言語学者によって証明されてきたが、いまだに全ての二言語間CSについて説明可能な理論は存在していない。そこで本研究では、韓国人留学生を対象に非常に類似している言語同士だと言われている日本語と韓国語間で発生するCS現象について、いくつかの文法的仮説に従い、繰り返し検証を行った。その結果、今のところ日・韓CSにつき最もうまく説明できるのは、フレーム・コンテント仮説（Frame-Content Hypothesis）であるとの結論に至り、またそのためにはベースとなる言語を認める必要があることを発見した。今後は、より多くの調査協力者を対象に調査を行い、研究結果の普遍性を高めていきたい。

1　コード・スウィッチング（Code-Switching）、借用（Borrowing）、混用（Code-Mixing）は、その定義において曖昧なところがあり、本稿では田崎（2006）、東（2009）、宮原（2012）を参考にそれぞれの特徴を認めた上で、コード・スウィッチングの意味を混用、借用と区別して用いたい.

2　方言から共通語へと切り替える場合も言えるが、本稿では異言語間で起きるスウィッチ現象に限定して議論を進める.

3　2013年1月9日からテレビ東京系列で放送中のバラエティ番組.

4　韓国語の動詞や動作性名詞に日本語の補助動詞の「する」を結合させたり、日本語の動詞に韓国語の補助動詞の「하다」を結合させたりすること.

5　金静子（1994）「일본내의 한/일 2언어병용화자（한국인）의 Code-Switching에 대하여」『二重言語学会誌』第11号二重言語学会pp.79 例（34）参照.

[6] 金静子（1994）「일본내의 한／일 2언어병용화자（한국인）의 Code-Switching에 대하여」『二重言語学会誌』第11号 二重言語学会pp.79例（37）参照.

[7] 金静子（1994）「일본내의 한／일 2언어병용화자（한국인）의 Code-Switching에 대하여」『二重言語学会誌』第11号 二重言語学会pp.79例（38）参照.

[8] 郭銀心（2012）「韓日バイリンガルのコード·スウィッチングに関する一考察」日本語教育研究　第24号の〈表6、pp.169〉をもとに、筆者が修正を加えて作成したものである.

[9] 宇佐美まゆみ・李恩美・郭栄美・金銀美（2007）「基本的な文字化の原則の韓国語への応用について」『談話研究と日本語教育の有機的統合のための基礎的研究とマルチメディア教材の試作』pp.48－82

[10] 意味を担う言語の最小単位（高見澤 孟、2004『新しく始まる日本語教育 基本用語辞典』語文学社 pp.145参照.

[11] 「山」や「川」のように単独で用いることのできる形態素（高見澤 孟、2004『新しく始まる日本語教育 基本用語辞典』pp.154参照.

[12] 単独では用いることができず、必ず他の形態素と一緒に用いられる形態素を拘束形態素と言い、例えば「食べた」は「食べ」という動詞の語幹と「た」という過去の助動詞の二つの形態素からなっているが、それぞれ単独では用いられないから拘束形態素である。日本語では助詞、助動詞の他、動詞、形容詞も語幹だけでは用いられないので、拘束形態素に分類する.（高見澤 孟、2004『新しく始まる日本語教育 基本用語辞典』pp.154参照.

[13] 主格、主語として使われる名詞・代名詞の格（藤原雅憲2004『よくわかる日本語－文法』語文学社 pp.37参照）.

[14] 韓国語は子音の有声・無声による意味弁別機能がない主体を表す格助詞（韓国国立国語院【web】www.korean.go.kr参照）.

参考文献：

庵功雄（2002）『日本語文法ハンドブックⅡ』J&C

宇佐美まゆみ・李恩美・郭栄美・金銀美（2007）「基本的な文字化の原則の韓国語への応用について」『談話研究と日本語教育の有機的統合のための基礎的研究とマルチメディア教材の試作』pp.48-82.

風間喜代三（2008）『言語学』東京大学出版会

郭銀心（2012）「韓日バイリンガルのコード·スウィッチングに関する一考察」日本語教育研究　第24号 pp.159-178.

金静子（1994）「일본내의 한／일 2언어병용화자（한국인）의 Code-Switching에 대하여」『二重言語学会誌』第11号 二重言語学会pp.72-95.

金美善（2000）「在日コリアンの言語接触に関する社会言語学的研究 - 大阪市生野周辺をフィールドとして」大阪大学大学院文学研究科日本学専攻　博士論文 pp.1-154.

金美善（2001）「在日コリアンの混用コードについて - 大阪市生野区周辺における言語接触の観点から」『青丘学術論集』第19集、韓国文化研究振興財団pp.273-300.

金美善（2003）「混じりあう言葉 - 在日コリアン一世の混用コードについて」『言語特集 移民コミュニティーの言語』第32巻 第6号、大修館書店pp.46-52.

金花（2013）「中国朝鮮族の会話におけるコード・スウィッチングの実態研究」九州大学大学院比較　社会文化学府　修士卒業論文pp.1－75.

田崎敦子（2006）「コード・スウィッチング研究の概観 - 多言語社会のコミュニケーション分析に向け-」、『言語文化と日本語教育』増刊特集号pp.54－76.

藤原雅憲（2004）『よくわかる日本語－文法』語文学社

東照二（2011）『社会言語学入門』研究社

松岡弘（2002）『日本語文法ハンドブックⅠ』J&C

宮原温子（2012）「フレーム・コンテント仮説の一検証」目白大学総合科学研究 第8号 pp.83-92.

高見澤孟（2004）『新しく始まる日本語教育 基本用語辞典』語文学社

김원미（2009）「징검다리 같은 한국어, 병풍 같은 일본어」『언어표현을 통해서 본 한일문화』한국일어일문학회 제이앤씨pp.151－166.

韓国国立国語院【web】www.korean.go.kr

Frame Content Hypothesis applied to Japanese-Korean code-switching

LEE YU JEONG

This research is concerned with Japanese-Korean code-switching (CS) performed by Koreans studying in Japan. It is based on the framework of Equivalence Constraint and Free Morpheme Constraint, syntactic rules which are representative of CS. In this study, words within CS utterances are divided into function words, which govern the word order of the sentence, and content words. Function words indicate tense, voice etc., and include affixes, articles, auxiliary verbs, prepositions, postpositions and other words which mainly perform a grammatical function. Content words include nouns, verbs, adjectives, adverbs, conjunctions and other words with some semantic content. This study divides the process of CS into two steps: the insertion of content words and the construction of sentence structure. The conclusion is that the Frame Content Hypothesis is highly useful for explaining Japanese-Korean code switching. Furthermore, the FCH gives an insight into the reasons for using Korean words together with Japanese *suru* e, a mixed form which has become the topic of numerous studies, and it helps understand the grammatical attributes of this form.

Keywords： Korean students in Japan, Equivalence Constraint, Free Morpheme Constraint, Frame-Content Hypothesis